

第3回 南九州市議会議員定数等調査特別委員会 会議録

令和4年4月25日(月)
委員会室

(開会 11:00)

1 市民へのアンケート調査について

○西委員長 それではお揃いですので、本会議に引き続いて市議会議員定数等調査特別委員会を開会したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」という声あり〕

○西委員長 それでは早速会次第に基づきまして、1番目の市民へのアンケートを実施したらという前回の御意見がありましたので、事務局に調査をしていただきましたので、事務局のほうから報告をお願いします。

○川崎書記 資料は会次第の下にあります調査表（議会に対する市民アンケートの実施について）です。令和4年4月21日現在で、県内の19市に市民へのアンケートを実施しているところの内容について調査したところであります。19市の中で市民へのアンケートを行っているところが4市ありました。枕崎市、南さつま市、指宿市、いちき串木野市です。他の15市についてはアンケートのほうは行っていないということです。

開けていただきまして、資料というふうに右に書いていますけど、南さつま市、指宿市、いちき串木野市のアンケートの内容をそれぞれの市からいただきましたので掲載しております。南さつま市が1ページからになります。指宿市が8ページにあります。いちき串木野市が14ページからで、ここにつきましては調査内容と集計結果を20ページに掲載していますので、これらの資料をもとに御意見を出していただければと思います。

最初に戻っていただきますと、この中の項目の4アンケートを実施したことによる意見、感想という形で各市のほうからいただいております。枕崎市から南さつま市、指宿市、いちき串木野市のそれぞれの意見があります。アンケートをとって良かったと、アンケートをとったところからはそのような意見が上がってきているようであります。以上です。

○西委員長 4市のほうが、市民にアンケートをとったということでございます。これについて皆さん方から本市もどうするかを含めて御意見がありましたら出していただきたいと思います。ありませんか。

○吉永委員 前回も申し上げたんですが、事務局の19市の県内の状況もなんですけど、インターネット等で全国的に調査しているところもやはり人口減少もですが、議員定数を削減した中で、ずっと段階的に減ってきているんですが、やはり市民の意向調査というか、なり手不足もなんですけど、報酬等とかいろんな調査データというのは、僕はやはり必要なと。せっかく特別委員会で調査するわけですので、今回、期間も十分ありますので、私はやっぱりアンケートをとった上で、その御意見をもとにいろんな議論が必要かと思いますので、調査をする意味で、僕はこのアンケートは実施したほうが、今回定数をする。削減されていくんだったら、それでその都度でいいと思いますけど、やはりコロナ禍で意見交換会も出来ない

状況の中で、議会だよりで前回言いましたホームページ等で意見をとるのもですが、なかなかそういう部分でも無作為でアンケート等実施したその結果をもとに、いろんな判断材料にもなりますので、私はやはりすべきだという意見です。以上です。

○**取違委員** 私も吉永委員と同じように、やはり近隣市で特にこのアンケートをやっておりますので、やはり南九州市もこのアンケートをとらずにやらなかったら、多分市民の方々も周りはしたのに、なぜというようなことも出るのではないかというのが1つと、やはりこの枕崎市のアンケートなんかもそうでしたけど、やはり細かく市民の方に問うというか、議員の在り方等について見てもらっていますので、やはりアンケートはやっていくべきではないかなというふうな思いであります。

○**浜田委員** 政治の体系そのもの、主権者が市民で市民が議員を決定する。議員は、自らは立候補するだけですから、決定する市民権を持つ方々の意見というのは当然何うのが常識、常道であると。以上です。

○**大倉野(由)委員** 先ほど事務局から4市の資料が渡されていますけど、このアンケート結果についての意見とか感想とかというふうなところでの当局のこれ御意見だろうと思うんですが、総じてどこも市民の意見を理解ができたということとか、議論の活性化になっている。検討する参考資料になった。貴重な資料になったと、どこのまちもこういう結果が出ているわけですから、ぜひ、同じような形でやったらいいんじゃないかと思います。以上です。

○**日置委員** 私はアンケートをとるべきだと思います。理由として1番大きいのはいわゆる声なき声というものを拾いたいということです。私たちと近い関係性の方の意見というのもすごく大事なのですが、なかなか意見を届けたいけど届けられない方とかいらっしやんと思っています。等しくその方々も市民なので、声なき声を拾うということにおいてアンケートというのはすごく有効な手段なのではないかと思っています。ただ、これは強調しても強調し過ぎることはないと思うんですが、だからといって私たち議員が1人1人の市民の方との意見を聞くことを軽んじているということは全くありません。100人の人から1ずつ話を聞いても100分ですが、1人の市民から100分話を聞いても同じ100分なんです。アンケートというのは1人1分100人から意見を聞くような行いですが、それじゃ見えないものもあって、ちゃんと対面で話さないとわからないような深い話もあると思います。それはアンケートとそれぞれで聞くということは、どちらかが正しいというよりは相互補完的な関係だと思っていて、どちらも実施することで重層的に市民の皆様方の御意向を聞きながら判断ができるのではないかと思います。以上です。

○**西委員長** 今伺ったところでアンケートをとったほうがいいという御意見が多かったようですが、そちらから先に決めたいと思います。またアンケートを取るとしても、内容もたくさんあるわけですので、この間の意見の中ではもしアンケートをとるんだったら、あくまでもその内容については参考にさせていただきますというような文言を入れたほうがいいという御意見もありましたので、そこを含めてアンケートをとったほうが良いという意見が多いようです。

○**竹迫委員** アンケートをとる。これはもうとってもいいと思う。前回も言ったようにアンケートの結果に沿うようにやりますとするのか。参考にさせてもらいますとか。そこら辺をはっきり示すべきだと思います。そうしないと何のためのアンケートだったのかと。それを

尊重すると参考にする。それは大きな違いがあると思う。ですからそこははっきり示してやってもいいと思う。やることはやぶさかではない。しかし、今言ったようなことはちゃんと示してのアンケートにすべきだと私は思う。以上です。

○西委員長 この間もそのように発言があったところですが。

○川畑委員 私は市民の声を大切にすることとは非常に大事なことだろうと思います。ただし、アンケートが本当に市民の声になるのかどうかということが疑問になります。ですからその辺のところをしっかりとらえた上でのアンケート。取るのであれば対象者をどうするのか。それからその結果をどうするのか。しっかりとその辺を決めた上でのアンケートにならないと、そのアンケートに縛られるようなアンケートではいけない。また偏ったアンケートのとり方もどうかというようなことも考えますので、やはりその辺のところは慎重に考えたほうがいいというふうに思います。ただし、私はアンケートをとる時間とかそういうのも考えますと、ちょっと難しいところがあるかなというような形でアンケートはもう必要ないんじゃないかなと考えております。

○吉永委員 あくまでも調査なので期間も十分あります。もともとこの特別委員会の対象期間を3月にした理由というのは、1年かけても全然いいわけですね。次の選挙まで2年あるわけですから期間は十分あります。調査の資料ですので、やはり市民の意見の中でどこもアンケート調査をする中で、皆さんの御意見を調査事項に書いていますよね。調査するためという文言で先ほどありました御意見等をその資料の数をもとにということをして、どこも入れていますので、その心配というのは僕はないと思って、ないというわけじゃなくてそういうところをちゃんとしっかり入れた上で期間も無作為で年齢等も分けてしている状況を踏まえて調査すべきでないかという意見の提案です。以上です。

○浜田委員 今議員の仕事というか使命は意思決定機関でありますから、これが1番重要な仕事です。意思を決定する。でありますからアンケートというのは参考のものである。参考にするものを、とりあえずアンケートとしてとって参考として決定するんですよ。決定するのは議員の仕事ですよ。それが原点であります。

○竹迫委員 この特別委員会は定数等についても次の選挙の1年前ぐらいには結果を出しましょうということだから、今度の12月ですね。それで早々余裕あるとは私は思わない。アンケートとかそういうことをやるとしたらですね。そういう意味ではさっき言ったように1年前には定数等についても、報酬を含めてですが結果を出すべきだというふうに思いますので、余裕はないと私は思っている。

○西委員長 今ございましたようにアンケートをとる余裕があるのかなのか、そこはまたそれぞれの皆さんの考え方も違ってくると思うんですが、今話が出ましたように遅くても12月、早くも9月ぐらいまでにアンケート取る期間があるのかなのか、そこらについてはどうですか。皆さん。

○竹迫委員 期間がないと私は思わないです。とるんであれば早速その作業に。事務局には大変だと思いますけど、委員長、副委員長含めてですね。ですけどこれはもうあくまでも私は参考にということをして前提で取るべきだという考えを持っています。ですからやるとすればまだ間に合うと。しかし、やっぱり急ぐべきだというふうに私は思う。以上です。

○西委員長 皆さん、今御意見がありました。やっぱりアンケートはとるべきという方が多

いようですが、内容についてまだこれからですけれども、アンケートをとるということで、もう賛否をとりたいと思いますが、賛成の方ちょっと挙手をお願いしてよろしいですか。

【挙手多数】

○西委員長 はい、ありがとうございます。賛成の方が多いようです。まずアンケートをとるという方向で進めていきたいと思います。

それではアンケートのとり方です。この資料をいただきましたけれども、南さつま市については無作為に抽出して1,200名ということがあるようです。それと枕崎市も1,000人。1000名の方を抽出して18歳以上の方の1,000名ということでされております。指宿市についても2,000名ですか。というようなことで調査。そしていちき串木野市については市内16地区のまちづくり協議会あるいは市内各種団体計51ということで、全市民ということではどこもやっていないようです。全市民というともた大変かなという思いもありますが、これについてはどうでしょうか。

○日置委員 3千名の無作為抽出を提案します。私は川畑議員がおっしゃったことがすごく重要だと思っていて、このアンケートというのが統計上有意な数をとらないと、まさに偏った結果をもとに私たちは判断してしまいます。統計上有意なラインがどこなのかということで、今まで南九州市はアンケートでいうとサンプルで3千でしたよね。2千か3千、要は市がとるアンケートと一緒にということが言いたいわけです。それが2千だったら2千なんですけど、統計上有意な数をとるということが大前提だと思いますので、そこは何かちゃんとしたいという思いがあって3千より詳しくなら市がとるアンケート数と同じ、数はやっぱり取らないといけないだろうし、それ以下の数で取ってしまうと、統計情報に信頼性がちょっと薄くなってしまうのかなと思います。以上です。

○竹迫委員 内容とか数に入る前に基本的な「参考にさせていただきます。」とか、「アンケートの結果に従います。」とか、そこをはっきりしないと私は前に進むべきじゃないと思います。

○西委員 わかりました。今、竹迫委員からありました。アンケートをどの程度取るかの前に、アンケートの内容について先に議論したほうが良いということで、アンケートを参考にするかしないかのことを協議したほうが良いということですよね。

○竹迫委員 「アンケートの結果に従います。」と、そういうことであれば議会は必要ないんですよね。議会そのもの我々選挙で選ばれた、付託されたことを否定するようなことになるので、ですから私はあくまでも参考にさせていただきますという。そういう取り方でやるべきだと思う。「従います。」というのであればこれは反対します。

○吉永委員 最初にいただいた枕崎市のアンケート調査の目的ですよね。このほかのアンケートをしているところを印刷して持って来ればよかったんですけど、ほとんど調査、研究、議会活性化とか、やはり今後の定数や報酬等の特別委員会の研究の基本資料となる調査なんですよね。調査の参考資料としてこの御意見をいただきますと入れているところが多いので、このような言葉で僕は全然問題もないし、先ほど竹迫委員からありましたこの調査のデータをもとに議論しますよということで、市民には映るわけですので、18歳以上の対象者で日置議員がいわれた無作為でしっかりとデータがとれる部分で、期間は1か月でできるというふうに私は考えております。以上です。

○西委員長 いま、2人の方からアンケートをとる意味、要するに内容については参考にさ

させていただきますという文言を先に入れたほうがいいんじゃないかという御意見がありましたが、そういうことで進めていいですか。

〔「はい」という声あり〕

○西委員長 それを大前提として協議を進めていきたいと思いますが、先ほど日置委員から調査対象を無作為の3千名ぐらいにしたらという御意見がございましたが、ほかに御意見はありませんか。

○蔵元委員 するという方向になっているようですが、これ多分予算が伴うわけですよね。6月議会に、例えば準備をして、上程して、最短でいくとそうだと思うんですけど、その大きさによってその予算額も多分変わってくるんですよね。例えば自分たちで全部するのか。例えばどこかに委託するのか。その辺も出てくると思うんですけど、こういうアンケートしたことがないのでちょっとわからないんですけど、事務局としては準備とそれから自分たちで自前でできるのかどうかとかいう部分でいくと、どのように考えているんですか。

○樋渡局長 1番がそこだと思います。今日の結果を踏まえてアンケートの方法とか、予算化というのは6月議会ということで事務局内で話はしましたけども、数とかその辺によって事務局でできるのか全てですね、あるいは委託するのか、そこはまた近隣市も含め確認しながら、ちょっと早期に詰めていきたいと思います。今の段階ではまだ白紙の状態です。

○西委員長 調査の仕方によっては、今、蔵元委員が発言されたように予算も伴うんじゃないかと。そしてまた調査の方法、どこまでというようなこともあるんですが、これについて事務局とまた最終的に決めたいと思うんですが、それはそういうことで進めさせていただきたいと思いますが、今度は内容ですよね。今、どこまでの範囲を。ここの先ほどの資料を見ていただきますと、枕崎市については議員定数及び報酬そのほか自由な意見とか、南さつま市についても定数、報酬、議会活動、指宿市においても市議会の傍聴ですか、中継、定数、報酬というようなことが書いてございます。いちき串木野市もそのようなことですが、先般もちょっとそのような調査内容についても意見がありましたが、この内容についてどこまでというのが、御意見がありましたら、お願いしたいと思います。

今回は、議員定数等ということで等が入っておりまして、調査特別委員会ですので、もちろん報酬も入れたほうがいいのかなあと、個人的には思ったりもするんですが、議会活動全般も、前回、全般も含めてというようなこともありましたので、その辺の調査内容ですね。どのようにお考えかお願いしたいと思います。

○今吉委員 アンケートを実施したところを見てみますと、目を通したんですが南さつま市議会へのアンケート等の内容がいいんじゃないかと今私は思っているんですが、というのは政務活動費についても、現在、南さつま市では政務活動費は支給されていませんとか、支給したほうがいいのかとか、その辺も出ているようですので、ぱっと見た限りではこの南さつま市のこれを見本としたら妥当じゃないかなと思います。以上です。

○西委員長 はい、ただいま南さつま市のこの調査内容を参考にしたら、そしてたたき台というような感じで調査項目をしたらということですが、ほかにございせんか。

今、御意見が出ましたが、もうこれをたたき台に検討させていただくということでよろしいですか。

〔「はい」という声あり〕

○西委員長 それでは、そのようにさせていただきたいと思います。ことについては予算も含めて、調査対象も含めて、またちょっと事務局と検討させていただいて、この1番目についてはよろしいですか。

〔「はい」という声あり〕

2 議員定数に伴う関連調査項目について

○西委員長 それでは2番目の議員定数に伴う関連調査ということで、これももう今出ましたように、報酬も含めて南さつま市を参考にして、調査項目を検討させていただいてよろしいですかね。

○川崎書記 2番目の議員定数に伴う関連調査項目については、前回の委員会の中で、定数を決めていくことになりますけど、委員の方から「等」という中で、どの項目までを、委員会のほうで決めていくのかというのがありましたので、そこについての議題になりますので、そこについての意見をいただきたいと考えております。以上です。

○西委員長 アンケートではなくて、我々の議会定数等調査特別委員会の中で関連調査項目をどこまでするかということです。でございますからちょっとアンケートもちょうとかぶるところもあるかもしれませんが、例えばですが、報酬までいくのか。そこらは皆さんどのようにお考えでしょうか。

○吉永委員 係長が言った説明は、別紙のこの中でほかにあったりとか、これを参考にということですね。

○川崎書記 いえ、1枚紙のものは他市を調べる場合にはこのような項目で、ある程度の他市の状況を確認する項目として挙げておりまして、これ以外にもあったらどうかという形で、その他で皆さんから意見を聞いていきたいと考えていたところですよ。

○蔵元委員 この前もちょうと言ったんですけれど定数、報酬に関しては、もちろん比較していくことも大事なんですけれども、やはり面積とか、町の産業形態とかいうような部分で、これだというのは出てこないと思うんです。ただ、やっぱり毎回、毎回、定数をどうこうだと、あまり基準としたものがない中で自分たちで決めていくというのはなかなか市民の方も理解に苦しむと思うんです。ですから、話し合いの中で、やっぱり、例えば予算の中の性質別でいくと人件費が幾らであれば、人件費の中に議会費の報酬とかが含まれているのは、そのパーセンテージが人件費の中の議会に与えられている基準はここですよ、この中でやっていくためには人数をとというのは、予算が減る方向に多分あると思うんです。ここになったらこういうふうを考えましてここあたりを考えましょうというある程度目安をやっぱり検討していかないといけないのかなというふうに思うんです。だからそこ辺をアンケートはもうするというでなっているんですけれども、自分たちの報酬と定数に関して、大まかな基準がこういうふうなんですよというのは考えていくべきかと思います。

○川崎書記 この2番につきましては議員定数がありまして、それに関連して報酬もあるんですけど、議員定数に伴いまして常任委員会とか、政務調査活動費とか、そのような大项目的なもので、「等」でどういうものを調査をしていくかということで、今回議題を上げさせていただいたものになります。

議員定数を決めていくに当たって関連する常任委員会、あるいは報酬、そういうはある程

度の項目を決めていったほうがいいんじゃないかと、前回の委員からの意見をもとに、ちょっとわかりづらかったかもしれませんが、その項目について挙げていただきたいということです。以上です。

○西委員長 今、蔵元委員からも、あるいは係長のほうからもありましたように調査項目ですので、今回の特別委員会でもどこまで調査をするか。ほとんどは先ほど前回の2回目のときは、一部意見の中ではもう報酬は現状のままでいいんじゃないかという方もいらっしゃいました。あるいは政務活動費に充当できないか。例えば定数を減にした場合はというような意見もあったようですが、この調査項目で報酬まで入れるのか、今、先ほど係長がありましたように、定数によっては委員会を3つから2つにするのか、そういうのもありますので、そこまで含めて考えていくのか、大前提として、先般、御意見が多かったのは18名でした。18名であれば、3委員会で行えるんじゃないかという御意見、あるいはもう2委員会でするべきではないかとか、そういう御意見もあると思うんですが、どうですか。調査項目として、どこまでというのは、今日でなくてもいいですか。

○日置委員 提案なんですけど、今挙げた10個について、これは調査項目とすべきでないという意見は今のところ出ていないのかなというふうに考えたんです。だとすればこの10個はとりあえず対象としておいて、追加するものを妨げるわけではないので、これ以上増やしちゃいけないという決まりはないので、今ここで少なくともこれで合意取れるんだったらとってもいいんじゃないですか。もちろんほかの反対される方がいたら別ですよ。でも今出てないのでどうかと思う。

○川崎書記 この1枚紙のものは実態調査項目で、この2番の資料じゃなくその他で語ろうと思っていたもので、これは前回日置委員が言ったように政務活動等、どこまでを定数に関連づけて「等」ということで調査していくかという意見がありました議題です。

○浜田委員 政務調査活動費まで踏み込んでおりますから、一言発言しておきます。政務調査活動費は、公からいただくんじゃなくて議員自らが、自らの手で調査費は支出するというのは当然であり、それを公からいただいて調査をいたしますのは、どうも議員としてはだらしがない。せめて義務として、政務調査をするために報酬をいただいているわけですから、政務調査というのはいちいち報告をして、チェックをして、その政務は正しいかどうかというところまでできますので、そういうことを公から議員がいただくというのは正常じゃない。一言くぎを刺しておきます。

○西委員長 その他のところまで今出ましたように、政務活動費までいくともう要らないという御意見でしたけれども、この1枚紙でいきますと、これを参考にもう今日は結論は出ないので、次回のときまでに、議員定数と報酬まででいいのか、あるいは常任委員会、定数によっては常任委員会のところも発生します。詳しく調査するとまた特別委員会というのがございますが、今日はもう結論は難しいのかなと思いますが、また、予算も調査の内容によっては出てくると思うので、次回にしたらと思います。

○菊永委員 すいません。その他というようなことであります。それぞれアンケートをとるということで多数決ということでもあります。検討させていただいたということでもありますけれども、それぞれ3千名のという調査をしたほうがいいってというようなことであったかと思います。我々の地域、それぞれ3つの地域があります。1千人ずつにするのか、無作為とい

ったら固まる場合もある。それと年代的なもの等も調査しているところがありますけれども、やっぱり地域を1千人で割って、年代別でやっていくというような、そういうやり方がいいのかなと思いますけれども、回答等を見ればもう30%とか、そのぐらいの回答でありますけれども、10になったら3名ぐらいの回答があったというようなことですが、多数決でアンケートをとるということで決まりました。報酬等もいろいろあるかと思います。また、次回までに考えてもらってはどうかというふうに思っているところです。

私はこの前の地方議会人というのが、それぞれ議員ボックスに入っていたかと思いますが、これの中でいろいろ読んでみますと、議員の若手の成り手がいない、子育て支援の方々が成り手がいないというようなことについては、報酬等がということで載っていました。報酬等がそれで生活できる対価というものを求められれば、議員に若い人たちも多くなったというのが出ているようですので、ぜひその辺についても皆さんしっかりと考えて、次回の委員会でしっかりと議論をしていただければというふうに思っております。以上です。

○西委員長 今、菊永委員から、調査対象、人員、そして調査の仕方、年代別にとったほうがいいんじゃないかとか、報酬についてもなり手を確保するためにはどうするかということまで議論したほうがいいんじゃないかというような御意見でしたので、次回にもう1回また、そこを皆さん次回までに検討していただいて発言をしていただければと思います。

○竹迫委員 私はこの定数と報酬、これはもう議論すべきだと思います。それで前回も言いましたが、2人減ったから1割強報酬を上げましょうとか、定数を2割減らしたから報酬を2割強上げましょうとか、そういう私は単純なものじゃないと思う。そんな軽いもんじゃないと思っている。そういうことで、今の我々の議員の報酬ですね。4百4、5十万、年間なと思う。そういうことからして、本市でどのような所得の位置にあるのかという事も考えていくべきだと思う。今、最近チラシ等が入っていますが、こういうチラシ等を見ますと、働きざかりの人たちの報酬、少ないですね。こういうこと等も十分考慮して議論すべきだと思う。以上です。

○西委員長 今、竹迫委員からありましたように報酬も含めてということ、報酬の在り方についてもここで結論も出ないわけですので、次の会議までに皆さん方の御意見をまとめていただければと思います。それと本日発言されなかった方は特に次回にできれば私はこう思うというような御意見をいただければなおありがたいと思います。定数の意見の集約にはやっぱり議会の活性化もありますので、御意見をぜひいただきたいと思います。

3 その他

○西委員長 その他のところに行きたいと思います。

○川崎書記 1枚紙の市議会実態調査項目についてお配りしています。これは今後、調査していく中で、19市の調査をして検討するということも大事だと思いますので、項目を抜き出しております。もしこれ以外にまだこういうところを調査したほうがいいというのがありましたら、事務局のほうに教えていただきたいと思います。以上です。

○日置委員 1つ提案がありまして、定数等調査特別委員会の会議録、会議資料については新庁舎建設検討委員会と同様にホームページに公開するのはどうかという提案です。というのは、2つ理由があって、1つはアンケートまで取るのであれば、そのアンケートがどのよ

うに扱われたかということまでオープンにしたほうがいいんじゃないのかということが1つと、もう1つはどうしてもこれ仕方ないんですけど、議員定数について議員で決めるという性格上どうしてもこうクローズドになりがちな側面があると思っていて、やっぱり開かれた議会というのを実現する意味でも、新庁舎建設特別委員会と同様の扱いとして、会議録、会議資料をホームページでオープンにするべきだという提案です。

○西委員長 日置委員からありましたように、どうなんですかね。事務局の事務量も増えるのかなと私は思います。

○竹迫委員 これは私は公開すべきだと。堂々とですね、どういう考えを議員が持っているのか。これは何も隠す必要はないと思う。それはこのことで事務局の負担になるというようなことであれば、ならないような何か策を考えていただきたい。以上です。

○西委員長 そういう御意見もありました。例えばアンケート結果は、この南さつま市についても報告をされているようです。もう当然枕崎市もですが、これについてはまた1回、1回、特別委員会のたびにというのか、あるいはもうアンケート調査後に例えば議会だよりで、こういう御意見があったとか、あるいはそのほかに調査をして回答をいただいた方にはこういう詳しい資料まで発送するのか、そこまでまたどうでしょう。次回のところで意見をまとめたらと思うんですが。

○竹迫委員 この特別委員会の会議録をオープンにしましょうという提案だと思います。日置委員は。私はそれは先ほど事務局の負担、そういうこともあると思いますが、事務局の負担を減らすようにして、これはもうオープンにするのは当然だと思う。以上です。

○西委員長 御意見わかりました。オープンにするのを会議毎に第1回、第2回、会議ごとに全部オープンするのか。そこですよ。総体的にアンケートをとっていただいて、それはあくまでも参考でしたので、参考にさしていただいて自分たちが決めたことをトータル的に開示するのかということを私は今申し上げたところでございます。どうですか。

○竹迫委員 ちょっと違うんじゃないですか。これはこの特別委員会の会議録をオープンにしましょうと。したほうがいいんじゃないかということです。ですから、アンケートの結果云々とか、そういうことはまた全く違うんです。今、私がこういうしゃべっているのも公開しましょうと。していいじゃないですかということです。

○西委員長 それをホームページに載せたほうがいいんじゃないかという日置委員の御意見だったわけですね。今そういう、この議論を載せたほうがいいんじゃないかということでしたが、どうでしょうか皆さん。委員会ごとに全部を載せたほうがいいのかという御意見ですけれども、ただ、非常に労力を要するのかなと僕は思いがあったわけです。

○日置委員 ちょっと申し上げさせてください。まず、2つあって1つ目は労力という点でいうと、これを公開したとしてもしなかったとしても事務局は会議録をつくるんです。だからそれをすぐ上げてくれというようなことを言えばもちろんそれは多大な労力になると思うんですが、事務局はこれをアップしたとしてもしなかったとしても、どっちみち公文書として会議録を残すわけなので、事務作業として増えるんだとすれば、ホームページにアップするという1手間が増えると思います。これが1点と。

もう1点お願いしたいのが、委員長の思いはわかるんですが、やっぱり委員長なので、そこは中立にさせていただきたくて、ほかからそういう意見が出てそうだという話になってい

くんだったらもちろん納得なんですけど、僕はこうだからこうだっていうことを委員長にされてしまうと、やっぱりちょっとそこはすごく違和感があって、なぜ竹迫議員と今委員長がそういう話になったかと多分そこだったと思うんです。なので別に駄目なら駄目でいいんですよ。委員会の総意なんだからしょうがないことだと思うんですけど、やっぱ賛成も反対もできるだけ意見が出やすいような運営をしていただけると非常にありがたいです。以上です。

○川崎書記 事務局としてはその事務労力はないです。大丈夫なんですけど、ただこれを全文にするのかは、今、まとめてやるのか、もう全文でしたら本当に全てがオープンという形で、そういう協議の場で、そこが支障がなければ、そのような皆さんの御意見であれば、全文でよろしいかと思います。

○吉永委員 今、日置委員から提案がありました、新庁舎特別委員会同様、会議録も作成してアップができる状況、確認をした上で要点筆記でこういった協議をしましたということで公開すれば、その係長が言われた作業的にもというのは、要点筆記で僕はいいと思います。全ての会議録ではなくて、やはりこういった協議をして、今こういうふうに特別委員会は進んでいますよという情報の公開なので僕はそれでいいと思います。以上です。

○竹迫委員 要点筆記となったら、難しいんじゃないですか。要点をまとめる人の主観が入ったりするんじゃないですか。全部公開していいんじゃないですか。それで人に聞かれて悪いような意見があるとは私は思わないです。むしろ自分の考え、意見を聞いてもらったほうが議員としてはいいと私は思います。つまみぐいするようなことをすると誤解を招くものになる。

○日置委員 作業量でいうと、要点筆記にしたほうが作業が増えるはずだと思うんです。というのはどっちみち協議記録は残して、その会話形式の協議記録は残さないといけないんです。これは。委員会だから。そこからさらに要点筆記のような形で文書をつくるとなるとどれが重要なのかという抽出をしていかないといけないわけですよ。ということは作業量で言ったら、要点筆記じゃなくて、さらのまま上げたほうが、楽というか、今このこいつ（音声システム）がいてくれるので、だから上げるべきか、上げないべきかということを作業量だけでいうんだったら多分そのまま上げちゃったほうが楽なんですよね。ただ作業量で決めていい問題なのかというのもあるので、多分係長もそこは話し合ってくださいというふうにおっしゃっていただいたと思うんですけど、会議とか会議資料を私はその全文、全部と言わなくても、例えば全協とか委員会の会議録ぐらいの密度ではどうかと。全文できれば1番いいんでしょうが。

○西委員長 どうですか。今全文載せてもいいんじゃないかという御意見もありました。要点でいいんじゃないかという御意見もありました。

○吉永委員 私は要点筆記という言い方がちょっと誤解というか、だったんですけど、先ほど申し上げた新庁舎特別委員会でアップしている状況と同じ状況でいいんじゃないかという言い方をしたかっただけですので、御理解をしていただければよろしいかと思います。以上です。

○竹迫委員 要点でとなると、事務局がやるのか。どこがやるとかということになると。事務局でも本当職員がどう書こうとか、何らどうしようとか、大変な作業になる。ですからありのままですよ。これを市民に公開する。これは私は1番ベターだと思う。誤解も招かな

い。以上です。

○西委員長 載せたらという御意見がございましたが、そのように事務局がそんなに負担がなければ願うという御意見でよろしいですか。どうですか皆さん。

【「異議なし」という声あり】

○西委員長 異議ない。それでは事務局のほうで、そのようにお願いできればと思います。この間もいろいろございましたが、できれば市民の皆さん方が見ていただけると非常にありがたいという思いはございます。掲載していただいて、各個人の御意見を市民がこの人はこういう考えだというのが分かると思いますので、そういうふうにさせていただきたいと思います。そのほかでございませんか。

○大倉野(忠)委員 この調査項目なんですけど、以前選挙公営費の負担の意見も出ていたような気がするんですけど、この10項目のうちでどれに該当するのか、該当しないんだったら、新たにまた項目として入れていただきたいという要望です。

○樋渡事務局長 選挙公営関係、車とかの関係。それについて選管のほうで今回、条例改正を進めているということですので、車とポスター等、9月議会に上程予定という情報が入っています。議会のほうで調査する事項ではないと判断していますが、よろしいでしょうか。

【「はい」という声あり】

○西委員長 はい。ほかにないですか。

【「なし」という声あり】

○西委員長 ないようですね。第3回の議会議員定数等調査特別委員会を閉会いたします。御苦労さんでした。

(閉会 11:56)